

脱北女性の生涯史研究

○ 韓国・三育大学 Kim Young Sook

1. 研究目的

韓国には 脱北者という同質的であると 同時に 異質な 文化集団が 存在している。韓国 (South Korea) と北朝鮮 (North Korea) は 元同じ 民族であり、1000 年以上の 民族国家 (Nation State) を形成してきた。1945 年 以後、兩國は分裂し、60 年 以上の異なる 政治・経済体制を固守している。1994 年 以後、北朝鮮の食糧難がきっかけとなり、韓国に脱出する北朝鮮住民が急速に増加した。北朝鮮離脱住民たちは、同じ民族でも、韓国とは 別の政治・経済・文化的 環境の中で 生きてきたので 韓国社会への 適応に困難が多い。

研究者たちは、脱北女性の生涯史を研究しようとする。本研究では、ある脱北女性の生涯史研究だが、これにより、北朝鮮離脱住民を めぐる 韓国社会の 具体的な。一般性 (concrete generality) と 女性の移住のための 時仕を 分析しようとする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、Rosenthal (2008) の生涯史研究方法によつて 修行した。Rosenthal の 研究のアプローチは、個人の生涯史を 年代記順に 記述する ことから 脱して 生涯史を生涯史、年代記順 敘事的 生涯史、体験された生涯史に 区分して 敘事的生涯史では、過去の潜在的な 行爲志向を 分析し、体験された生涯史では、過去に現在の解釈と未来志向を分析し、それを 構造的に 統合する。このような過程を 通じて 生涯史主人公と 連貫されている 特定社会の 構造的特性を 調べることが できた。何故なら、個人の 生涯史は、その 個人の 生きてきた 記録というよりは 社会との 接点で発現された 社会的構成物であるからである

1) 研究参加者：この生涯史研究の主人公である 崔〇〇さんは、2012 年 現在、35 歳で 北朝鮮の 中学校を 卒業した。北朝鮮では、小規模ビジネスをした。2009 年、北朝鮮を脱出し、タイを経て韓国に定着した。現在未婚であり、宗教は ない。職業は 風俗店の 女性従業員である。

2) 生涯史データ収集：口述生涯史テキストは詳細な議論 (in-depth interview) を 実行して構成した。研究者たちは、完全にオープンなインタビューを行いました。

3) 生涯史の分析：生涯史テキストのは、最初に 番目に年代記の 順生涯史を構成した。第二は、壮大生涯史を再構成した後、ここに 示された 生涯史主人公の潜在的な行爲志向を分析した。第三は、体験された生涯史を再構成した後、生涯史研究主人公の過去の解釈と 今後の行動指向を分析した。最後に 生涯史研究主人公の 生涯史を類型化し、これに対する議論をした。

3. 倫理的配慮

質的研究は、深い知識を 探求しようとしたため、この過程で、個人の倫理的な問題が発生することができる。本研究では、個人のプライベートな部分と感情的に敏感な部分はありませんが、一般的に起こることの倫理的な問題を考える ことが必要だった。研究者は、次のような倫理的装置を設定して研究を実行した。

第一に、研究参加者の選定において、自発性を尊重した。第二に、研究参加者の 所属機関長と 住民の場合 社会福祉士や 機関を 通じた 研究への 参加について 説得して、研究の趣旨と目的を十分に説明し、自発的な参加を支持した。第三に、研究参加者のプライバシーや秘密保持をした。また、研究参加者の個人情報や地域の情報は匿名で処

理した。

4. 研究結果

- 1) 研究主人公の時系列順 (Chronological) 生涯史 (life history)
- 2) 研究主人公の 敘事的 生涯史 (Narrative life history)
- 3) 研究主人公の 體驗した生涯史 (experienced life history) 再構成

この生涯史研究主人公の脱北は、"資本主義経済体制"への憧れと、新しい機会を見つけるためだった。これは、移住の女性化という従来の議論と配置される。これまでの 経済後進国から 先進国に移住する女性たちは、世界化のパラダイムにより、自国の経済的必要によって一時労働者として他国から流入されると見ている (Kim, 2006; Lee, 2005)。しかし、本研究で主人公の場合、竹のカーテンよりも閉鎖的で、すべてが完全に制御された北韓で時々接する韓国の情報を聞いて命をかけた脱出を敢行した。何が果たして彼女の脱出を推進しましたか？研究者の分析によると、それは"市場の力"だった。現在の北韓の国境地帯は原始資本主義と呼んでもいいほど、秘密の市場が形成されており、ここでは、市場の秩序の下で商取引が行われます。生涯史研究主人公は、小規模商売をしながら、"市場"と"お金"の威力を切実に経験した。北韓の警察は民衆の財産と生命を保護する役割ではなく、体制守護の尖兵として民衆の上に絶対的な力として君臨してきた。

しかし、彼らもお金の前には無力だった。北韓は厳格な社会主義統制経済体制である。しかし、金があれば 何でも 購入が 可能だった。お金の威力を経験した 生涯史研究主人公は、より自由な環境で、より多くのお金を稼ぐという希望で、北韓を脱出した。韓国に定着した生涯史研究主人公は、資本主義のもう一つの顔を経験した。韓国社会では、お金がこぼれたが、そのお金のほとんどは、少数が独占した。人的資本が脆弱な生涯史研究主人公は、相対的貧困と貧困を切実に体験した。

5. 考察

生涯史研究主人公は自分の若さと女性という生物学的性が唯一の資本だと思ったし、これを活用することができる風俗店で ウェートレスとして就職した。生涯史研究主人公は、"民族"という概念をめぐる韓国社会の二重性を目撃した。Anderson (1992: 19) によると、民族は社会的実在というよりは一種の観念の構成物であり、想像的な共同体である。民族同一性も生来的 というよりも社会的に構成されているのだ (Castells, 2000)。しかし、韓国人に 民族は 厳然とした 社会的実在であり、共同体の連帯の中心である。このような社会的認識のために 北韓離脱住民たちは、政治・社会的な公論の場では、韓国の人々と同じ市民に受け入れられる。しかし、非公式な私的領域で、北韓離脱住民たちは招かれざる客であり、別々には韓国に浸透したスパイ、あるいは家族さえ捨てた冷酷な人間などで確認される。また、韓国社会の主流に編入されることを望まない。韓国社会の二重性と厳格な資本主義秩序は新たな機会を探して韓国に定着した女性を風俗店ウェートレスとして運転した。研究主人公も、手段と方法を問わず、お金を稼ぐという"え、資本主義"の信奉者となった。彼女は新たな機会を探して韓国に来たが、その機会は限られた。

韓国社会は、現在の 多文化社会に 進入している。多文化主義は 政治的な 捜査ではなく、少数者の 権利を擁護し、共存の 領域を 確保する 真の 人間解放の 手段と なるためには 解決すべき 多くの 問題がある。構造的な 差別の 撤廃、均等な機会の確保などを挙げられるが、最も急がれるのは主流社会の二重の罪を脱いで主流の言説を放棄し、再構成したものということができる。